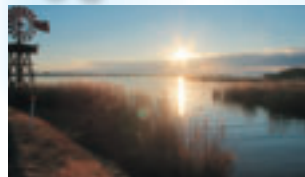


ちょっとひと言!!

市民の声



北浦湖畔からの初日の出

広報委員が市民の皆さんに、行方市に寄せる思いをインタビューしました。

● 毎日お疲れ様です。

一、行方市麻生玄通一丁目の県道両サイドU字溝蓋のバランスが悪く騒音がかなり酷い。前回シルバーさんが補修工事を行いました。また元に戻ってしまいました。

一、新国道バイパスの開通は、いつ頃になるのか。早めの前展開を希望します。

一、旧麻生の活性化を願います。そしたらもっと景気回復に繋がる事と思います。そして何らかに反映するのでは。

(60代・男性)

● 私は石岡から11年前に行方市に移住してきました。当時は知り合いがいなく、戸惑っていたところを消防団へ誘い頂き、入

団し付き合いができ、友人をつくることができました。

娘たちが小学校に上がり、さらに付き合いが広がり、PTA活動・地域等の行事にも協力参加することで、知り合いがさらに増えました。

私が行方市に来て想うことは『地域の繋がりがコミュニティの強さが深く根付き熱く団結力がある』魅力ある地域だと実感しています。

(30代・男性)

● 今年の商業祭は、様相を変えて市民ふれあいまつりとして、にぎやかに開催されました。

舞台裏の事はわかりませんが、交流人口を増やすという目的であれば、十分な成果があったと思います。

もともと目的が違うのかもしれませんが、それぞれの地域で行われてきた商業祭に代わるものならば、地域、世代を超えた交流のできるものであつて欲しいと思います。

市民まつりを名乗るのなら、一定の場所に全ての市民が集えるようなものであつて欲しいと思います。

(40代・男性)

● 子育て支援の充実と高齢者の方々のために、交通手段の考えをもつて、よりよい住みやすい町づくりをお願いしたいです。

さらに、送迎フリーバスも考えてもらいたいです。

(50代・女性)

● 行方に住み30年が経ちました。私は、何処へ行っても人の温かさを感じることが出来る行方の地域性が大好きです。

出来ればずっと行方市に住みたいと思っています。

そのためには、雇用・福祉の充実を目指し、全議員が市民の声に耳を傾け、懸命に努力して欲しいと思っています。

そして、行方の未来を担う大切な子供たちが、「ずっとここに住みたい」と思ってもらえるような行方市づくりをしてもらいたいです。

(30代・女性)

● 『今から低学年が下校します。いつも見守りありがとうございます。今日もよろしくお願いします。』と、ある地域に買い物に行く途中、女子の声で防災アナウンスが聞こえてきました。

誘拐事件や事故が多い中、地域みんなでの見守りに、とても感動しました。

行方市でも統合された為、私の子供達はバスでの登下校ですが、徒歩の児童もいますので、是非行方市でも参考にしていたきたいと思います。

(30代・女性)

編

集

後

記

立春の候、市民の皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨年は、全国各地で自然災害が多い年ではなかったでしょうか。今年は災害が発生しないことを願いたいものです。

あの東日本大震災3・11から早4年が過ぎようとしています。東北三県では、放射能被災地も含め、今尚復興半ばであり、早期の復旧・復興が望まれています。行方市では、復旧・復興はどのように進み、又第一原発事故の放射能問題等は満足に解決されたでしょうか。

さて、大震災後の復旧当初の選挙から4年。4月23日が任期末であり、26日投票で改選を迎えますが、我々は住民の皆様の付託に充分応えることが出来たでしょうか。

議員発議による定数削減案(2減)や県東地区議長会による報酬値上げが各市長宛に申し入れがされました。(未決定)この結果は、次号の紙面にて。

次回三月定例会も含め、私たちは残り3ヶ月弱、任期満了まで「魅力ある行方市づくり」のため、議会活動に努めていく所存です。今後共よろしくお願ひいたします。

(小林 久)

広報委員会

委員長 栗原 繁

副委員長 鈴木 裕

委員 大原功坪 小林 久
高橋正信 平野 和